

## 小中一貫教育に係る各説明会における質問と回答

<b>1</b>	<b>小中一貫教育の意義について</b>	
	<b>小中一貫教育の意義、良さは何か？</b>	<p>小中一貫教育においては、義務教育期間を長期展望して児童生徒の発達や興味・関心に応じて系統的、継続的な学習指導や生徒指導ができる。また、小・中学校の教職員の連携を深め、学校間の指導を滑らかにし、子どもたちの負担を軽減することや、地域連携が深まり、学校・家庭・地域社会が一体となった教育活動が、より幅広く展開できる。</p>
	<b>小中一貫教育にすれば多くの教育課題が解決するのか？</b>	<p>不登校に係る多くの事例の中でも、小・中学校分けて考えることは適切でなく、小・中学校9年間で教育責任を果たす必要が指摘されている。小中一貫教育というシステムだけで解決するという考え方でなく、9年間の見通し、より適切な指導を行うということが重要である。一貫校教育で全て解決するとは思っていない。</p>
	<b>特に宇治市で推進する小中一貫教育の意義は？</b>	<p>宇治市で育ち宇治市の未来を担う子どもたちの豊かな心の育成や学力向上など、人間としてたくましく生きる力を育成することを目指し、義務教育9年間で4・3・2の三期の目標を持って指導にすること、授業を充実させること、「いしずえ学習」や「宇治学」の実施、小学校の外国語(英語)活動、高学年からの教科担当制の指導を取り入れることなどを特色としている。その中で、小学校高学年から中学校段階で示す、学力面や生徒指導面における子どもたちの課題の解決を図る有効な教育システムの一つと考えている。</p>
	<b>学力向上を目指す特色を出すことや教員免許の関係上からも特区申請が必要でないか？</b>	<p>今回出された新学習指導要領の趣旨、内容において、本市が検討を進めてきた多くの内容やねらいが取り入れられたこともあり、敢えて特区申請をする必要はないと考える。</p>

小学校、中学校それぞれの良さ、意味がある。それを一緒にしていいものか。少子化で学校を統合していくと、遠距離通学の子どもたちも出てくるのではないか。行政としてもう決めてしまって走ろうとしているのではないか。宇治小の中に中学校を建てようとしているのではないか。始まってから「いいか」「悪いか」とならぬように、早い段階から協議し、話し合いに基づいて進めてほしい。

現在の小学校、中学校教育の良いところは、残していく。市民の方々の課題意識を捉え、早くからご意見を聞いてより良いものとしていくことは行政の責任である。適正規模については平成9年度から、小中一貫教育については平成16年度から検討を始め「検討懇話会」等に市民の方々にも入っていただき検討を進めてきた。その後「答申案」に対してのパブリックコメントを求めるなど、ご意見もいただいた。それらを基に方針を定め、それをより具体的に進めていくため、「説明会」の開催や「小中一貫教育推進協議会」等の協議を進めているところである。今後も積極的な情報公開とともに、一層広くご意見をいただき、児童生徒や保護者の皆様に喜んでいただけるものとなるよう、市教委として責任を持って決定していきたい。

**「不登校」については大きな課題と考える。宇治市の中学校の不登校について分析しているのか？**

不登校の要因は複雑で、その特定は難しい。ただ、特に不登校の中学生などは周囲へいろいろと気遣い、「自分がこうなったら」と先々をととても気にしており、集団や生活リズムの大きな変化に対しては強いストレスを感じている。そのような状況に対して、指導の一貫性、継続性など一貫教育の新システムをうまく活用できるのではないかと考える。

2	小中一貫教育の形態について	
	最終的に全ての学校を小中一貫校にしようとするのか？	
	現実問題としては難しい。	
	小中一貫教育校と小中一貫校をどうして決めるのか？	
	地域や保護者の意見も伺う中で、学校規模の適正、分散進学 of 是正を柱に、児童生徒数の推移、通学距離や安全面、地域コミュニティ、さらに校舎施設の耐震性や老朽化等を総合的に判断して行っていく。	
	小中一貫校と小中一貫教育校の2形態に分けて進めるのはどうしてか。	
	小・中学校教員の連携や指導面で見れば一貫校、子どもが小・中学校の区切りを施設面で意識できる点では一貫教育校と、どちらにも良い面がある。現宇治小の敷地に一貫校をとということになった経緯については、耐震化建て替えのこと、その際に新しい教育システムを導入すること、宇治市東部の児童生徒増への対応に加え、地元のご意見等、総合的に考えたものである。今後、他の地域においても地域や保護者の方々との協議の中で一貫校を望まれるならば、その方向も含めて検討していく。	

3	小中一貫教育についての説明会について	
		今後、説明会での意見を受けて、小中一貫教育推進の方向の修正は無いものと考えていいのか？
		関係予算の議会承認もあり、議会の合意をいただいている。説明会等で、多方面から意見を聞かせていただき、よりよい小中一貫教育となるよう、積極的に、また責任を持って進めていきたい。
		育友会（PTA）への説明の内容は？
		まずは小中一貫教育とは何か、その意義について理解していただく内容で開催した。今後、順次具体的な内容の説明をしていく予定である。

4	学校の適正規模について	
	学年単学級が何故悪いのか？	
	一定規模の集団活動の重要性と、そこで育つ大切な力の意義から考えれば、学年で単学級より複数学級の方が教育効果は高い。	
	小中一貫校の適正規模をどう考えているのか？	
	小中一貫教育校は2小1中、それぞれの校種で学年3学級以上で過大規模とならない学級数が望ましい。(仮)第一小中一貫校の場合は、1小1中で各学年3学級の計27学級以上となる。	
	「こう決まったのでこうして下さい。」ではなく、こういう説明会等での意見を大切に、進めていってほしい。京都府の教育予算の使い方に疑問。儲かる小・中学校教育というのは無い。教員の手を増やすなど子どもたちにとってプラスな面を出してほしい。単学級の考え方について、その基礎人数は？単学級はどのように良くないのか？ならば笠取、笠二小などをどう考えるのか？学校の統廃合等という中にはつぶされていく学校がありそうだが。学校規模の適正化の基本の考え方を示してほしい。少人数学級が望まれているが、それについてはどうなのか？	
	<p>単学級についての積算は40人学級。笠取、笠二小についてはへき地にある極少人数規模校として、教育活動の中で他校や中学校との交流や合同学習等、大きい集団の中での体験を重視し実践している。</p> <p>学級規模については、例えば38人の学年を少人数学級として2学級にした場合、1学級18人となる。その場合の集団活動、男女別の集団学習や体育、班活動等の面で考えると適当かどうかは疑問。学習基盤を安定させるため少人数学級との考え方はあるが、単純に複数の学級にするための少人数学級という考えはない。</p>	

5	分散進学、校区再編等について	
	分散進学の課題は何か？	
	小学校6年間で培ってきた集団としての一体感や交友関係が分断されること、中学校からの小学生への進学ガイダンスや小学校からの情報提供等の生徒へのサポート、相互の情報交換、個別指導等の面で連携した指導が難しい。	
	分散進学解消の見通しとスケジュールは？	
	今後、一貫校、一貫教育校、分散進学を含む一貫教育校の小中一貫教育の推進状況により、進められていく。	
	通学区域の自由化は考えるのか？	
	現時点では考えていない。	
	分散進学校の小中一貫教育推進は困難が予想される。その到達目標は？	
	分散進学のある学校は、教職員にとって倍の苦労があるかも知れないが、校内で十分に研修を進めて創意工夫ある取組を行ってほしい。	
	西小倉、南宇治地域の統合等の方針・見通しはいつ頃決定するのか？	
	遅くとも23年度にはと考えている。	

6	小中一貫教育の指導形態や内容について	
	4・3・2の前・中・後期、三期制にする意義がそれ程あるのか？	
	早くなってきている思春期の様々な課題解決や、中学校進学時に生徒が感じる多くのとまどいなどの解消を目指す有効なシステムであると考えている。	
	中期の教科担任制指導を取り入れる意義がそれ程あるのか？	
	生徒指導、教育相談、特別支援教育等、子どもたちを多面的に見ることができる。一人の担任に偏る見方や指導に終わらず、より多様な個性を持った教員の指導と対応による、豊かな教育指導を目指すものとして有効である。また、学力向上の面からも、今後一層、教科内容の指導の専門性が小学校高学年段階から必要であるとする。	
	宇治市でも高学年からでなく、もっと早くから専科指導制を取り入れてほしい。	
	小学校1・2年生は、担任が中心となって基本的な生活や学習の習慣形成についての指導を行うことが基本となる。したがって、低学年では複数の教員による指導が効果的だと考える。	
	小学校外国語（英語）活動の考え方、方法は？	
	新学習指導要領によって、5・6学年は実施することとなっている。加えて、本市ではこれまでと同様に1、2学年は教科の余裕時数で、3、4学年は「宇治学」の中で行うことも可能だと考える。	

7	(仮)第一小中一貫校の建設に関わって	
	宇治小学校は今後4年間、耐震補強をせずに放っておくのか？	
	「今、応急手当が必要」の考え方と同時に「直ぐに建て替えるのに貴重な税を使うのに無駄」という考え方も一方にはある。その中で、全市の状況を踏まえ、計画に沿って実施していく。	
	何故、宇治小に一貫校か？	
	小中一貫教育は全市域で考えていることであり、小規模校だけのことでない。生徒数や分散進学等、あらゆる検討の結果、宇治小を小中一貫校として整備すると決めたものである。	
	現在の宇治小の敷地で、本当に小1から中3までの1000人も小学校・中学生と一緒に生活できるのか？毎日の遊びや部活は十分にできるのか？他の場所に専用グラウンドは？プール、グラウンド、体育館、特別教室、保健室等の設置と使用はどうなるのか？学童の子どもたちの放課後の生活は？大きい中学生に圧倒されて小学生が伸び伸びと遊べず、行き場が無いのではないのか？	
	小中一貫校の整備については、今後、業者とともに計画を作成していくが、基本コンセプトにあるように「多様な発達段階の子どもたちが、のびのびと活動できる」教育環境は重要でがあると考えている。まずは関係法令に照らして、守らねばならない基準は確保し、次に工夫を加えて環境をより良いものにしていきたい。地域や保護者の方々のご意見・要望も含めて小中一貫教育推進協議会や専門部会の中で練っていただき、より良いものとしたい。また、もちろん部活動についても対応できるよう考えていく。部活動の種類については、中学生は300人程度に見合うものを開校へ向けて、学校は検討していくことと思う。	

8	(仮)第一小中一貫校の教育内容について	
	小学校は45分、中学校は50分と授業時間が違うが、問題とはならないか？また、中3の生徒の受験勉強時期に小学生の歓声や生活音は邪魔にならないか？	
	学習時間については、授業の区切りと組み合わせを工夫している先進例がある。これらを参考に工夫していきたい。受験期の勉強に関しても、前・中・後期についての教室配置を工夫するなど考えられる。	